

平成 17 年度「ニホンジカ保護管理部会」実施報告 及び平成 18 年度実施計画（案）

1. 平成 17 年度「ニホンジカ保護管理部会」実施報告

(1) 実施項目

1) 生息状況モニタリング調査

個体数調整及び区域保護対策・単木保護対策の効果を把握するとともに、ニホンジカ保護管理計画の検証や適正な捕獲数の算出に資するデータを得るため、継続的な生息密度調査（糞粒法、区画法、ルートセンサス法）及び GPS 発信機による行動圏調査を実施した。

2) 個体数調整

ニホンジカによる自然植生への影響の軽減を図り、将来的に健全なシカ個体群を維持する生息環境を回復させるとともに、健全な森林生態系を取り戻すことを目的とし、個体数調整及び捕獲個体分析を実施した。

3) シカによる植生への影響調査

ニホンジカによる植生への影響を把握するため、緊急対策地区で下層植生調査及び剥皮状況調査、重点監視地区・周辺地区で毎木調査及び植生調査を実施した。

4) 区域保護対策・単木保護対策

ニホンジカによる植生への影響を軽減するため、防鹿柵の設置及びラス巻き付け等を実施した。

(2) 部会等の開催状況

平成 17 年	6 月 3～4 日	第 1 回ニホンジカ保護管理手法検討ワーキンググループ
平成 18 年	1 月 27 日	第 2 回ニホンジカ保護管理手法検討ワーキンググループ
	3 月 9 日	ニホンジカ保護管理部会

(3) 実施内容

1) 生息状況モニタリング調査（参考資料 2(2)1. 参照）

① 生息密度調査

糞粒法による近年の生息密度は、全体的に安定し、大きな変化は見られなかった。区画法及びルートセンサス法では、1990 年代後半以降減少傾向を示した。

全体的には、以前高い密度で推移している。

② 行動圏調査

GPS 発信機をメス成獣 4 頭に装着して行動圏調査を実施し（約 5 ヶ月間）、山上に定着性の高いことが確認された。また、GPS による行動圏調査は、大台ヶ原で有効に機能することが示された。

2) 個体数調整 (参考資料 2 (2) 2. 参照)

① 捕獲状況

平成 17 年 6 月 13 日から 12 月 4 日までの 52 日間実施し、25 頭 (オス 5 頭、メス 20 頭) を捕獲した (捕獲目標 60 頭)。

捕獲方法は、アルパインキャプチャー (2 頭)、麻酔銃 (21 頭) 及び簡易捕獲ワナ (2 頭) を併用した。

捕獲効率 (頭数/日数) は 0.48 であり、平成 15 年度から減少傾向を示している (15 年度: 1.25、16 年度: 0.75)。

② 捕獲個体分析

栄養状態 (RKFI 指数) については、成獣オスは夏～秋季にピークを向かえ、繁殖に参加できなかった成獣メスは秋季にピークとなり高い値で冬季を向かえ、繁殖参加メスは冬になるにつれ徐々に増加した。

繁殖状況については、妊娠率は 0%、乳汁の有無による繁殖率は昨年とほぼ同様の 75.0% であった (昨年度 76.9%)。

胃内容分析については、例年通りササが主体であったが、その他今年度の特徴として、秋にササの比率が減少していること等が確認された。

3) シカによる植生への影響調査 (参考資料 2 (3) 参照)

① 下層植生調査 (緊急対策地区)

ササ類については、ミヤコザサは被度、高さともに増加しているのに対し、スズタケはいずれも減少していた。

② 剥皮状況調査 (緊急対策地区)

剥皮状況と枯死の関係について「剥皮度が大きくなるほど枯死率が高くなる」という整理がなされたため (平成 8 年～17 年度調査結果より)、本調査は一旦休止し、今後はモニタリングのため 3 年に一度の間隔で実施することとした。

③ 毎木調査・植生調査 (重点監視地区・周辺地区)

今年度より、重点監視地区 (3 地点) 及び周辺地区 (3 地点) で毎木調査及び植生調査を実施し、剥皮状況等について確認した。

4) 区域保護対策・単木保護対策 (参考資料 2 (4) 参照)

① 区域保護対策 (防鹿柵)

剥皮等シカによる被害の進行が著しいと考えられる区域に緊急的に設置するとともに、今後の森林生態系保全再生の検討に向けて必要な実験区等を確保するために設置した (3 箇所 6,534ha)。

② 単木保護対策 (ラス巻き付け)

防鹿柵による区域保護が困難で、剥皮被害が顕著に見られた箇所に設置するとともに、老朽化したものの張り替えを実施した (新規 1,500 本、張替 1,500 本)。

③ 小規模防鹿柵

大台ヶ原地区パークボランティアにより、ドライブウェイ沿いの 5 箇所に木柱の小規模防鹿柵を設置した。

2. 平成18年度「ニホンジカ保護管理部会」実施計画（案）

（1）生息状況モニタリング調査

継続的な生息密度調査（糞粒法、ルートセンサス法）を実施する。

（2）個体数調整

個体数調整及び捕獲個体分析を実施する。

捕獲目標頭数は、計画値43頭に今年度の取り残し35頭を加えた78頭とする。

また、既往の捕獲方法に加え「大規模捕獲柵」による捕獲を実施する。併せて、銃器（麻醉銃を除く）による捕獲について、人の安全に十分配慮した実施方法等についても検討・整理を進める。

（3）シカによる植生への影響調査

緊急対策地区で下層植生調査を実施する。

（4）区域保護対策・単木保護対策

東大台では溪流沿いの希少種の保全に着目して、西大台ではギャップ内の後継樹の保全及びスズタケ群落等の下層植生の保全に着目して防鹿柵を設置する。

単木保護対策については、平成17年度と同様に、防鹿柵による区域保護が困難な箇所に設置するとともに、老朽化したものの張り替えを実施する。

また、平成17年度に引き続き、パークボランティアによる小規模防鹿柵を設置する。

（5）ニホンジカ保護管理計画の見直し

平成18年度は大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（平成13年11月）の計画最終年度であることから、計画目標に対する評価を行い、その結果を踏まえて計画の見直し等について検討する。

表1 平成18年度スケジュール（案）

	平成18年										平成19年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ニホンジカ保護管理部会 同WG等		○							○	○		○	
（1）生息状況モニタリング 調査								↔ 糞粒法	↔ ルートセンサス法				
（2）個体数調整			←										
（3）シカによる植生への影 響調査								↔ 下層植生調査					
（4）区域保護対策・単木 保護対策								↔ 区域保護対策	↔ 単木保護対策				
（5）ニホンジカ保護管理計 画の見直し													